

学士課程教育における自己点検とその改善に関する年次報告書（総評）

医学部

1. 評価結果一覧

自己点検・評価単位	分析 項目 1-1-1	分析 項目 2-1-1	分析 項目 2-1-2	分析 項目 2-2-1	分析 項目 2-2-2	分析 項目 3-1-1	分析 項目 4-1-1	分析 項目 4-2-1	分析 項目 4-2-2	分析 項目 5-1-1	分析 項目 5-1-2	分析 項目 5-2-1
医学 プログラム	5	5	4	4	4	5	4	4	5	4	4	5
看護学 プログラム	4	4	4	4	4	5	5	5	3	4	3	5
理学療法学 プログラム	4	3	3	5	4	4	3	4	4	5	4	5
作業療法学 プログラム	5	5	4	5	4	4	4	4	4	4	4	4

自己点検・評価単位	分析 項目 6-1-1	分析 項目 6-2-1	分析 項目 6-3-1	分析 項目 6-3-2	分析 項目 6-3-3	分析 項目 6-4-1	分析 項目 6-4-2	分析 項目 6-4-3	分析 項目 6-5-1	分析 項目 6-6-1	分析 項目 6-6-2	分析 項目 6-6-3
医学 プログラム	5	5	5	5	3	4	5	4	4	4	4	5
看護学 プログラム	5	5	5	5	3	5	5	5	5	5	5	5
理学療法学 プログラム	5	4	4	3	3	4	3	4	5	4	4	4
作業療法学 プログラム	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	5

自己点検・評価単位	分析 項目 6-6-4	分析 項目 6-6-5	分析 項目 7-1-1	分析 項目 7-1-2	分析 項目 8-1-1	分析 項目 8-1-2
医学 プログラム	3	5	3	5	3	4
看護学 プログラム	3	4	3	5	4	5
理学療法学	4	4	2	3	4	3

プログラム						
作業療法学 プログラム	4	4	2	3	2	3

(⑤十分に適合する ④適合する ③やや適合する ②余り適合しない ①適合しない)

2. 評価結果に対する総評

【医学プログラム】

医学科は平成 30 (2018) 年 1 月に、日本医学教育評価機構による「医学教育に関する分野別評価」(いわゆる国際認証)を受審し、評価基準に適合していることが認定された。認定時に提示された質向上のための示唆に基づき、さらなる改善のために改革を進めている途上であり、その成果は年次報告書にまとめ提出している。

2022 年度は新型コロナウイルス感染症の拡大が続いたが、オンライン講義が取り入れられ 3 年目となった。感染状況を踏まえ、講義室を定員の 1/2 が対面で実施、残りがオンラインで受講するハイブリッド講義もスムーズに継続実施した。年度後半からは学年によっては対面も再開された。

施設の整備として講義室がオンライン講義に対応できるよう機材の整備を行った。またラーニングマネジメントシステムが Moodle に一新されたのに伴い、学内外からの講師を招き、Moodle の操作や活用に関する FD を 2 回実施した。コロナ禍による遠隔医療教育の進歩もあり、1 年生の医療行動学において遠隔 3D システムを使用した糸結び実習や遠隔医療実習を行った。コロナ禍において医学教育への ICT を活用した教育の導入が進んだ一例であろう。

学生に対するメンタルサポートや面談についても引き続きチューターと連携しながら強化・継続している。

なお、学士課程教育の自己点検で挙げられている点検項目は、多くが国際認証の認証項目と重複しており、国際認証に適合後に継続して行っているさまざまな改革の成果を反映した自己評価となっている。

【看護学プログラム】

保健学科看護学専攻・看護学プログラムにおいては概ね基準を満たしている。看護学プログラムは、専門職の養成、国家試験受験資格の付与という明確な達成目標を持ち、4 年間を通して講義、演習、実習、臨地実習と段階的に基礎理論から実践的知識・技能・態度を修得する方法を展開している。新型コロナウイルス感染症パンデミック禍においてもこれらを止めることなく、創意工夫の中で実施した。また、教員が臨床教授等及び臨床指導者と協働して、各学生の到達度を確認し、指導を改善する仕組みを整備していることから、また、学生からの評価も高いことから、肯定的な自己評価となった。

令和 4 年度は、「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」に基づくカリキュラム改正による新しいカリキュラムの 3 年度目であり、高齢化に対応した老年看護学や在宅看護学の実習や研究科目において専門科目を開講した。具体的な成果はこれから現れると考える。

【理学療法学プログラム】

理学療法学プログラムでは、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、専門職の理学療法士としての基礎知識、技能、態度を修得させ、科学的思考力と創造性を発揮しうる人材を育成するという達成目標を持ち、教育を展開している。一方で、新型コロナウイルスの感染拡大により、一時期に対面授業や実習が一部制限される事態となったが、オンラインや学内実習を中心とした柔軟かつ適切な対応によって、結果として国家試験合格率は昨年度より上回り、全国平均と比べ高い水準で推移し、大学院進学者も約半数と保健学科で最も高く、科学的思考力と創造性を兼ね備えた人材育成に取り組んでいる。さらに入試に関しては、アドミッション・ポリシーに基づき、光り輝き入試総合型選抜（II型）大学院進学型入試の導入、一般入試での面接試験の導入などの取り組みを含め、質の高い学生の養成にも取り組んでいる。

理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則の改正を受け、優れた学生を受け入れ育てるため、1年次早期から専門教育を学習できるプログラムや、実習科目の充実など、実用的な体制が整備された新教育課程を作成した。2020年度入学生より運用を開始し、現在も円滑に運用されている。

各基準に対する振り返りでは、概ね基準を満たしている。昨年度課題に挙げた分析項目 7-1-1 学部への留学生受入れは、理学療法士という日本の国家資格がかかわる専攻の性質上、現時点では積極的な受入れに至っていないことが課題である。

【作業療法学プログラム】

現在、高齢化の進展に伴う医療需要の増大や地域包括ケアシステムの構築等が喫緊の課題となっており、こうした背景から作業療法士に求められる事柄も変化してきている。作業療法学プログラムでは、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、こうした社会からのニーズに対応し、活躍できる専門職としての基礎知識、技能、態度を修得させ、科学的思考力と創造性を発揮しうる人材を育成するという明確な目標を持ち、学部教育を展開している。理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則の改正を受け、令和2（2020）年度入学生よりその運用を開始した。理学療法学専攻との密な連携により、1年次早期から専門教育を学習できるプログラムを構築し、優れた学生を受け入れ、育てるための基盤となる教育プログラムを整備できたと考えている。

しかし、令和4（2022）年度（2023年3月発表）の国家試験合格率が全国平均を下回ったことは、教員一同が課題として向き合う必要が生じている。令和3（2021）年度から、国家試験対策WGを専攻内に立ち上げ、課題分析と学生指導を専攻全体で取り組んでいたが、全国平均と並ぶ結果となったものの、100%の合格率を目指した更なる検討の必要性が生じている。

他の分析項目として、分析項目 7-1-1 学部への留学生受入れは、作業療法士という日本の国家資格がかかわる専攻の性質上、現時点で積極的な受入れに至っていないことが課題となっている。また、領域8のリカレント教育については、地域住民の関心が高いテーマの設置について、継続的な検討を重ねることが必要となっている。